

医療法人三精会 こころの森病院

福井県福井市

設計・監理／共同建築設計事務所
施工／田中建設



北東外観 分節しボリュームを抑えつつ、跳ね出した病室が印象的なファサード

設計主旨

福井市内の市街地に建つ精神科病院の移転新築プロジェクトである。建替えを機にこれまでの長期入院主体の医療から地域連携を強化した外来診療と急性期医療にも対応する医療へと転換を図ることになり、建築としてどのように応えていくかがテーマとなった。

— L字型の敷地を活かした配置計画

新敷地は既存病院の道を挟んだ向かい側であり、移転とはいえ来院者にとっては、同じアクセスでたどり着くというわかりやすい立地である。敷地形状はL字型であり、敷地の形をそのまま型取るような形状で建物を配置した。

既存の玄関が面していた交差点に同じく新病院の主玄関を置き、広がりのあるピロティを介してアプローチできるようにした。特に冬季における雨や雪に配慮し、歩行者だけでなく、エントランス脇での安全な車の乗降も可能とした。

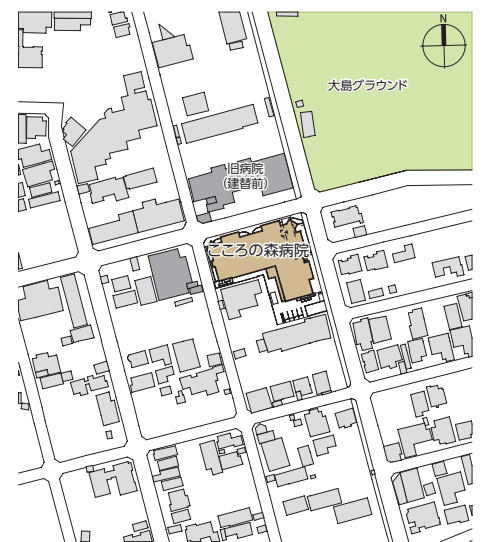
— まちとつながるエントランス

まちと向き合うファサードは周辺の住宅になじむように、病棟階の壁面を明るい色合いの軽快なボリュームとし、分割された凸型の壁

面を傾け、軽くおじぎをしている形で来院者をやさしく迎える形態とした。

病院の顔であり、地域との接点でもあるエントランス廻りは、落ち着きと柔らかい印象をつくるため、木や和紙などの温かみのある素材でインテリアを構成している。待合は、ガラス面を用いて北向きの安定した自然光を取り入れ明るい空間としながらも、外部とは植栽やシェードでさりげなく視線を遮り、落ち着いた外来空間とした。

今後多方面に活用できるであろう竹垣を眺められる庭をもつ多目的ホールと併せて、新病院のイメージである「木漏れ日の差す場所」を空間的に実現した。



配置図 縮尺 1/4,000



雨雪でもアプローチしやすいピロティに面した主玄関



アイベクルに表示した病院名サイン*



木のぬくもりが感じられる受付と外光が差す待合

ー リハビリのための病棟

病棟は、L字型の平面の中央部にスタッフステーション (SS) を配置している。2つの方向に延びる病室群と共用部をスタッフコーナー (SC) とあわせて2つのカウンターから見守りができるようにした。ステーションからの距離が短くなりスタッフの移動負担を軽減している。

コンパクトな面積のなかでも特にリハビリや生活スペースを充実させ、病棟内の全員が集まる食堂以外にやや小さな談話コーナーを病棟廊下の一部を広げる形で設けている。複数ある共用部が病棟内でのリハビリやスタッフ・家族とのコミュニケーションに使えるスペースとなることを期待したい。

ー 病室群の「ユニットプラン」

病室廻りは、いくつかの病室と水廻りや談話コーナーをひとまとまりにした「ユニットプラン」として構成している。患者にとって洗面やトイレという毎日の基本になる生活行為に必要な諸室を病室の近くに配置し、引きこもりがちで患者が少しずつコミュニケーションを取り戻すきっかけになることを期待するもの

である。また、水廻りは配管や水栓器具などがありトラブルになりやすい場所でもあることから、ステーションからさりげなく見守りができることも重視した。

ー 患者の個性を尊重した病室廻り

病室は、主に4床室に特徴を持たせている。各ベッドのエリアをカーテンの代わりに間仕切りで仕切った「個室型4床室」と隣のベッドとの境に袖壁を出し、各ベッドが三方囲まれる安定感のある「個室の4床室」を使い分け、いずれも限られた病棟面積のなかで、個室とあわせて患者の状態に応じた病室環境を選定できるようにした。

ー まちの中にある、

身近で開かれた精神科病院を目指して

近年、より身近になりつつある精神科医療であるが、本院のように地域生活の中でまず患者を受けとめる役割を担っていく病院は増えつつある。それを支える建築は、まちの中に自然に溶け込み、地域社会と患者ともに寄り添う場所となることを目指した。

(鈴木慶治、小島千知、伊藤華子、高瀬 敦 / 共同建築設計事務所)



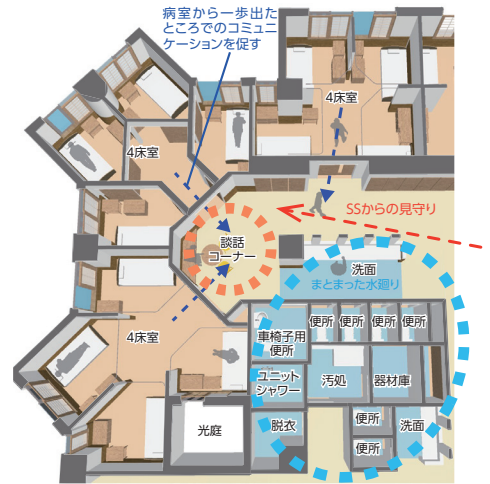
見守りがしやすいユニット内水廻り



落ち着いた居場所の1つとなる談話コーナー



インテリアに越前和紙を使用し落ち着いた雰囲気診察待合



ユニット詳細



2階平面図



1階平面図 縮尺1/1,000



個室の4床室 障子付き窓を持ち、袖壁を出すことにより三方を囲まれた安定感のある病室



個室型4床室 各ベッドを建具で仕切り個室に近い空間とすることができ



まちを望む病棟食堂

施工計画

建設地は住宅街にあり、2つの十字路に面する特徴的な街区形状をもった場所であった。外壁面が比較的街道から近く、往来する車両や近隣にこども園があるため、施工期間の工事車両の出入り・揚重計画に特に配慮しながら安全に工事を行った。

基礎に関しては、ほとんどが地下ピットのため、施工の際、周辺水位が高く砂質系の地層であったことから、土留め・ウエルポイントを行いながら計画的に施工を進めた。

外装に関しては、2・3階の東西、北面の病室の一部が斜めに飛び出しているため納まりが難しかったが、施工図での打ち合わせを密に行い、現

場にて精度を上げていった。

病室に関しては、先行モデルルームを作成し、施主、設計者、病院関係スタッフに実際の配置・納まり等を見て意見を反映しながら施工を行うことで満足いただける仕上げになり、無事竣工を迎えることができた。

こうして、ここに寄り添う医療機関として歴史を重ねてきた建物の建設に携われたことを光栄に思う。

(下川成一／田中建設)



基礎工事



躯体工事



完成全景

(写真提供：田中建設)



下川 成一……しもかわ なりかず
1973年福井県生まれ。2020年田中建設入社。現在、同社建築部所長

医療法人三精会 こころの森病院 データ

所在地 福井県福井市大島町柳301

主要用途 精神科病院

建築主 医療法人 三精会

設計・監理 共同建築設計事務所

担当／総括：鈴木慶治 建築：小島千知、伊藤華子、高瀬 敦



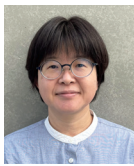
鈴木 慶治……すずぎ けいじ

1981年明治大学工学部建築学科卒業、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社代表取締役



小島 千知……こじま ちはる

1999年東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻修了、2004年共同建築設計事務所入社。現在、同社第2設計部 部長



伊藤 華子……いとう はなこ

1999年東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻修了、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社第3設計部 室長



高瀬 敦……たかせ あつし

2018年東京電機大学大学院未来科学研究科建築学専攻修了、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社第2設計部

構造 走坂建築設計事務所 担当／坪田秋月

設備 アイ設計 担当／高橋 武、西原功大

施工 田中建設

担当／下川成一、長濱洋一、東 悠人、能美魁人

設計期間 2020年5月～2021年12月

工事期間 2021年12月～2023年3月

【建築概要】

敷地面積 2,206.95㎡

建築面積 1,442.85㎡

延床面積 3,827.96㎡

建ぺい率 65.37% (許容70%)

容積率 173.45% (許容200%)

構造規模 RC造 地上3階

最高高さ 15.497m

軒高 12.247m

駐車台数 7台

地域地区 準工業地域

【病棟概要】

診療科目 全1科(精神科)

病床数 全96床(1床20室、3床4室、4床16室)

1床当延床面積 39.7㎡

病棟基準階面積 1,326.0㎡(3階)

1床当病棟基準階面積 22.1㎡

【設備概要】

電気設備 受電方式／3φ3W6.6KV 屋外キュービクル型

受変電設備 変圧器容量／650kVA 予備電源／ディーゼル式非常用発電機 105kVA

空調設備 空調方式／外調機+ 電気式ビル用マルチ方式

(EHP)空調機

衛生設備 給水／上水+井水処理1系統 受水槽+加圧給水

ポンプ方式 給湯／エコ給湯(電気式貯湯型温水器) セン

トラル給湯方式 排水／汚水・雑排水建物内合流式・下水道

本管へ放流

防災設備 消火／スプリンクラー設備、消火器 排煙／排

煙窓による自然排煙 その他／自動火災報知器設備、非常

警報設備(放送設備)、誘導灯設備、非常照明設備

昇降機 環台用×2基

特殊設備 ナースコール設備、監視カメラ設備、医療ガス設備

撮影／増田寿夫写真事務所

*撮影／共同建築設計事務所



まちの夕景に溶け込む外観

協力会社

電気設備工事	上野電機
空調・給排水衛生設備工事	斉藤設備機工
生コンクリート納入	三谷商事
軽量鋼製建具工事	山金工業
アルミ製建具	日海不二サッシ
床材	田島ルーフィング
サイン工事	マルキヤ宣伝社

医療法人社団慈生会 松山城東病院

愛媛県松山市

設計・監理／共同建築設計事務所
施工／東亜・二神・成武特定建設工事共同企業体



松山の地域性を生かし、分節化した壁面で構成したファサード



病棟の形態を活かした外観



地域に開いたエントランスホール

設計主旨

長年地域急性期医療を支えてきた松山城東病院が今回の建替えにより、建物が刷新されるだけでなく機能的で経営的にも価値のあるプロジェクトとして病院の方々とともに事業構築している。

昨今、二次救急の病院は対象患者が高齢者中心でありながら、効果的な医療とリハビリによって早期退院を促し、在宅医療・介護へとつなげることが求められている。退院を促進するがゆえにベッドの稼働率が下がり、病院経営を圧迫するという現象が起きている。今回のプロジェクトでは、これを解消するため、救急医療やリハビリの強化とともに、すでに行われていた健診や人間ドックなどを前面に出し使い勝手を良くすることで、日頃

から地域住民に親しみ信頼をいただき、医療を必要とするときに今以上に選択してもらえる病院に生まれ変わることを目標とした。開放的でアプローチしやすい環境づくりとともに、合理的な部門構成、配置、動線計画により、限られた医療資源を最大限に活用できる建築構成としている。

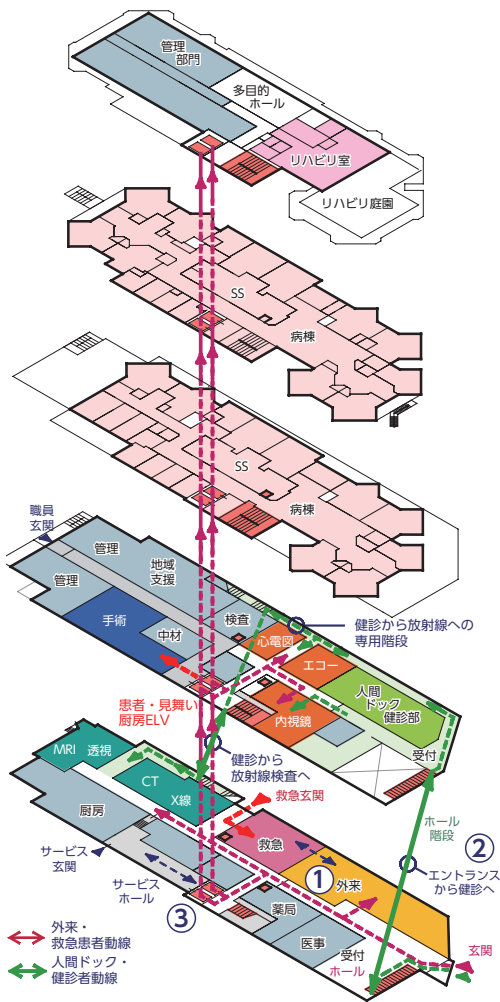
一 訪れやすい病院

病院を訪れる目的ごとにふさわしいアプローチを用意している。開放的な2層吹抜のエントランスホールから、①外来受診者は外来中待合へ、②健診者はホール階段から2階健診受付へ、③入院・見舞の利用者はエレベーターホールを介して各階病棟へと自然に目的地へ誘導され、開放的でありながらプライバシーにも配慮した動線を確保した。

救急は駐車場に面した北側に単独の玄関があり、感染症の患者にもアプローチしやすい構成とした。南側に職員・サービス玄関を専用で設けることで、利用者とスタッフの動線を合理的に分け、機能が錯そうしないよう計画している。



配置図 縮尺1/2,000



階層構成図

— 外来と分離した健診・人間ドックの動線

X線、CT、MRIや心電図・エコー・内視鏡などの検査部門は外来・入院患者とともに健診者も利用する部門である。治療を目的とした患者と健康な状態の利用者が同じ空間で検査を待つことへの違和感を払拭するために、それぞれ単独の動線・待合を持つことで両者の交錯を最低限に抑える工夫を行っている。

外来部門・各種検査・人間ドック健診部門との連携を強化することで、各種検査の効率性を高め、限られた数のスタッフでも手厚く利用者に寄り添うことができる部門配置となっている。

— 療養環境を大切に空間づくり

病棟内をいくつかのゾーンに分割することで、症状、性別などで病床をコントロールしやすい構成としている。見守りやすく病棟の入出管理がしやすい看護拠点として、病棟中央にスタッフステーション (SS) を配置。SSに隣接させて観察病室を設けている。観察窓からは各ベッドが見渡せ、直接観察室のベッドサイドに行ける構造としている。病棟の東西に多床室群を設け、その中間の南側に個室群を設けており、緩やかにゾーン分けが行える仕組みとしている。またSSの近くに食堂



1階外来と2階健診をつなぐ、エンタランスホール



明るい壁面が誘導サインとなる外来ストリート



地域景観を取り込むリハビリ室と屋上庭園

兼談話スペースがあり、病室内外にベッド以外の居場所があり、気分転換や在宅復帰に向けた訓練もできる空間を用意した。

— 個室的多床室

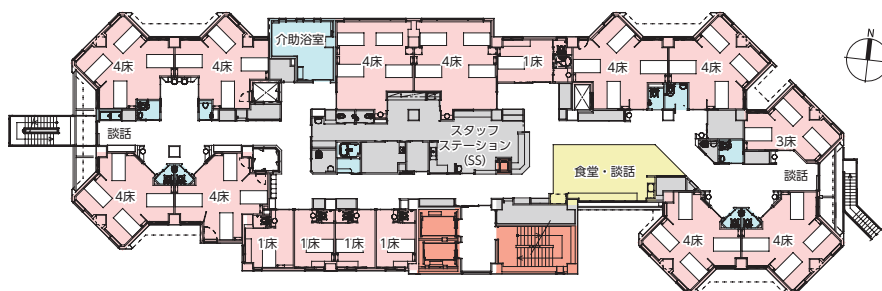
患者の個々の領域を明確にし、各ベッドに窓を持つ多床室とした。ベッドの配置に角度を持たせることで患者間のプライバシーを確保するとともに、モニターや多くのスタッフを同時にベッド廻りに配置できる広さを設けている。加えて、患者間の頭部間隔をとることで感染症抑止の効果も見込める。廊下側と窓側の環境差がなくなることでベッドの入替え要望も減り無駄な看護労力が軽減される。病室の直近に洗面台とトイレがあり、その先に食堂や談話コーナー等の居場所があり、自然と入院生活がリハビリにつながる仕組みとなっている。

— 誇りに思える充実した職場環境

患者との動線交錯を減らしたスタッフ専用通路を設け、スタッフが効率的に動ける動線を確保している。また、物品・給食搬送が効率よく各階拠点へ搬送できるよう、サービス専用の玄関とサービスホール、2方向エレベーターを設けることで、効率的な運用と働きやすい環境を提供している。

5階多目的ホールは、研修講演会等が開ける空間だが、普段は職員食堂として開放し、松山城も望めるなかで他職種との交流やリフレッシュできる場としている。働きやすさに配慮した機能的な構成と、コミュニケーションが取りやすい職場環境により、スタッフそれぞれが誇りに思える充実した職場環境を目指している。

(鈴木慶治、山下健司/共同建築設計事務所)



病棟平面図 縮尺1/600



個の領域を明確にした4床室



落ち着いた環境の特別個室



病室とスタッフステーションに面する食堂・談話

施工計画

本工事は既存病院に隣接した住宅地に立地し、周辺には井戸もあり、騒音・振動の抑制、水質汚濁防止には十分配慮し、影響の少ない工法を採用しながらの施工となった。

さらに東西に細長い狭小地で、大型車両のアプローチは接道幅の短い東面のみに限られるため、資材の搬出入をいかにスムーズに行うかが厳しい工期を守るためのキーポイントであり、次の点に留意して工事計画を行った。

①協力業者に適正な作業員確保を要請し、適切な工区割により無駄のない流れるような詳細工程の作成。(日々の重機配置、搬出入のシミュ

レーションを可視化し、関係者で共有)
②作業半径の大きい移動式クレーンを駆使し、台車による横移動の実施。

③基礎工事埋戻しには圧送可能で作業効率が良い流動化処理土の採用。

④上部躯体工事ではスラブ型枠にフラットデッキを多用し、支保工、型枠材の搬入手間の削減。これらの実施により、躯体工事期間が2週間程度短くなり、厳しい内装工程への貯金をつくることのできた。また、着工から竣工まで新型コロナウイルスの制限が続き、プランニングや仕様の決定に遅れが生じるのではと懸念されたが、要所の会議は対面で行い、経験豊富な設計監理者による的確な提案

と、発注者の速やかな判断によりスムーズに合意形成に至った。

その一助として既存病院内に作成した病室モックアップによる現物モデルの検証、BIMによる病室・厨房の換気量、温度分布などの気流解析、外壁タイルの大型見本作成による外観デザインの現地確認などは有効な取り組みであったと考えられ、優れた機能性と意匠性を併せ持つこの建物完成への大切なプロセスであった。

当病院を無事完成させることができたのは関係者全員がワンチームとなって取り組んだ結果であり、このプロジェクトに携われたことを光栄に感じている。(社 和之/東亜建設工業)



狭小地での施工状況



流動化処理土による基礎埋戻し状況



4階躯体工事状況 (写真提供: 東亜建設工業)



社 和之……つじ かずゆき

1966年高知県生まれ。1990年千葉工業大学工学部建築学科卒業、同年4月東亜建設工業入社。現在、西日本建築支店工事部副部長

医療法人社団慈生会 松山城東病院 データ

所在地 愛媛県松山市松末二丁目19-36

主要用途 病院

建築主 医療法人社団 慈生会

設計・監理 共同建築設計事務所

担当/総括: 鈴木慶治 建築: 山下健司、久保歩、松田大作



鈴木 慶治……すずぎ けいじ

1981年明治大学工学部建築学科卒業、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社代表取締役



山下 健司……やました けんじ

1991年鹿児島大学工学部建築学科卒業、同年共同建築設計事務所入社。現在、関西支社 設計部長



久保 歩……くぼ あゆみ

2008年京都女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻修了、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社関西支社 主任



松田 大作……まつだ だいさく

2009年信州大学大学院工学系研究科社会開発工学専攻修了、2018年共同建築設計事務所入社。現在、同社関西支社

構造 BASE.S.E 担当/山上英明、日高紗都子

設備 GE設備計画 担当/平野利治、敷田修一

施工 東亜・二神・成武特定建設工事共同企業体

担当/社 和之、高須賀健二、澤田孝二、中間慎治、山本泰之、福原電平

設計期間 2019年7月~2021年7月

工事期間 2021年11月~2023年4月

【建築概要】

敷地面積 5,274.37㎡

建築面積 1,628.19㎡

延床面積 5,560.18㎡

建ぺい率 30.86% (許容69.87%)

容積率 101.21% (許容200%)

構造規模 RC造(一部PRC造) 地上5階

最高高さ 23.5m

軒高 20.1m

駐車台数 73台

地域地区 第1種住居地域、近隣商業地域、法第22条地域

【病棟概要】

想定外来患者数 100人/日

診療科目 全10科

内科、リウマチ科、循環器内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科

病床数 全90床

3階: 合計42床

(1床7室、特床1室、2床1室、3床4室、4床5室)

4階: 合計48床

(1床4室、特床1室、3床1室、4床10室)

1床当延床面積 61.77㎡

病棟基準階面積 1011.76㎡(3階)

1床当病棟基準階面積 22.58㎡

【設備概要】

電気設備 受電方式/3φ3W6.6kV1回線受電方式 変圧器容量/1φ3W210/105V:300kVA 3φ3W210V:950VA 予備電源/屋外キュービクル式ディーゼル防災用発電機3φ220V 225kVA(278kW)

空調設備 空調方式/EHP(厨房のみGHP) 熱源/電気(厨房のみ:ガス)

衛生設備 給水/受水槽+加圧給水(井水併用) 給湯/中央方式 排水/重力式(ピット部:ポンプアップ排水)

防災設備 消火/スプリンクラー 排煙/自然排煙

昇降機 寝台用×2基、ダムウエーター×2基

特殊設備 医療ガス(酸素、吸引、笑気)

撮影/増田寿夫写真事務所

協力会社

電気設備工事・空調・給排水設備工事	中	電	工
解体工事	オ	オ	ノ
地質調査・地盤改良工事	東	昇	技
鉄筋工事	藤	元	工
建設機械レンタル	ア	ク	テ
超音波検査・環境測定	ST	環	境
現場打ちPCC工事	建	研	
金属工事	建	商	
金属製建具工事	理	研	巧
高強度ウレタンゴムアスベスト複合塗膜防水	エ	フ	ワ
塗装工事	パ	ド	ス
放射線防護・電磁波シールド工事	螢	光	産
ナースコール	ケ	ア	コ
消火設備工事	上	田	消
外構工事	日	本	道

医療福祉センター 倉吉病院

鳥取県倉吉市

設計・監理／共同建築設計事務所

施工／熊谷組・馬野建設特定建設工事共同企業体



既存棟（左奥および右端）との調和を図りながら新しさを加えた増築棟

設計主旨

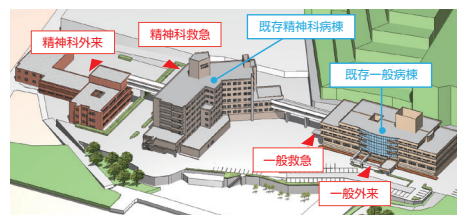
鳥取県の中部地域において精神科病院と一般病院を併設する医療法人が、精神科病棟の再編成を行うと同時に、それぞれの専門性に特化し機能の共有・連携を強化すべく、診療部門・それをサポートする管理部門を含めて再構築を行った。

2021年初めに今回の核となる増築棟が完成し、院内の面積に余力を持たせた上で、その後約1年をかけて既存精神科病棟の全面改修を行い、病棟再編成を完了した。既存棟は、築20年余りで躯体のポテンシャルは充分であり、設備機器システムと内装をほぼ全面リニューアルすることで建物の長寿命化を図ると同時にランニングコストの低減を目指した。

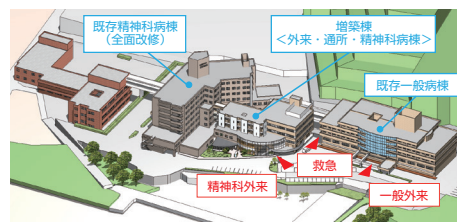
— 開放的なエントランスホールと わかりやすいアプローチ

新しいエントランスホールは、増築部分と改修部分を違和感なく一体化させ、新旧玄関のどちらからもアプローチできる一続きのゆったりとした空間とした。このホールにはカフェや広がりのある多目的スペースが連続的につながり、その奥に落ち着きのある外来診療部を配置した。

また、一般科と精神科の救急部門のアプローチを近接させ、検査部門や両方の診療科を連携しやすくした。各アプローチを整理した上で、既存棟内のエレベーターも増設・改修を図り、縦動線の機能を明確に分け、セキュリティを改善した。



再構築前



増築棟新設、既存棟改修完了後



新旧玄関が違和感なく一直線につながったエントランスホール



増築棟1階エントランスホール横に設けられたカフェスペース

7F

医局（倉吉）・管理

6F

運動・作業療法

管理

5F

精神一般病棟 60 床

合併症への対応、見取りへの配慮

4F

精神科療養病棟 60 床

閉鎖・開放に応じた特徴づけ、変化への対応

3F

急性期治療病棟 60 床

精神科救急病棟への移行も視野に

2F

認知症治療病棟 60 床

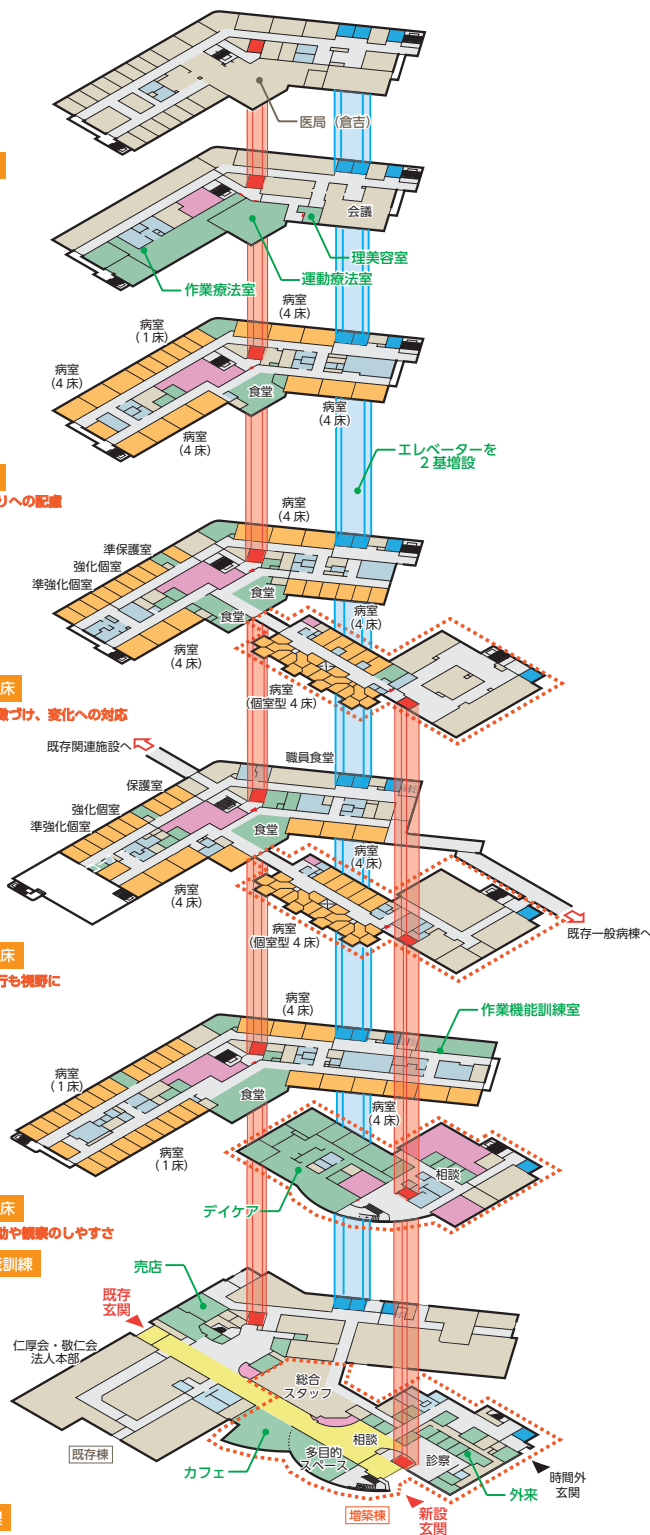
ゆとりのある空間、介助や観察のしやすさ

デイケア・生活機能訓練

1F

外来・カフェ・管理

平面構成図



上/個室の空間を確保した増築棟の個室型4床室 中上/ベッド間に間仕切り壁を設けた既存棟の改修4床室 中下/病室群に近接された水廻り等の生活スペース 下/病棟廊下面に造作したフレーム型ベンチ*

一 明確に特徴づけられた病棟

再編成した4つの病棟は、増築により病棟面積を増やし、個室率を上げるなど病棟ごとに特徴を持たせた。

例えば、3階の急性期治療病棟では、保護室・強化個室・準強化個室・4床室といった病室のバリエーションを持たせ、患者の状態に応じて環境を変えることができる病室構成とした。増築棟の4床室は各ベッドに窓のあるほぼ個室に近い環境を実現している。これまでの面積では実現できなかった個室群も追加するこ

とにより、独立性を活かしたストレスケアユニットとして機能している。

一方で既存4床室は、整形な形状を活かしてベッド間に新たに間仕切り壁を設け、廊下側のベッドにも光を入れた患者のプライバシーや個の空間に配慮したベッド廻りの環境を整えた。隣のベッドとの間に境界ができたことにより、広さは変わらずともベッドや身の回りの家具を好みに応じて配置することができる。

いずれも病室群の身近に洗面や便所等の水

廻りをコンパクトにまとめ、廊下側からの見守りもしやすくした。

一 多様な居場所と社会復帰への工夫

病棟内には、食堂だけではなく、デイスペースや造作ベンチなど、病室以外の小さな居場所を各所に設け、病室の一步外に自然な交流を誘発する仕掛けを用意した。さらに病棟外にも社会復帰に向けてより積極的な活動を支えるデイケア、生活機能訓練室、作業・運動療法室等も充実させ、患者が段階的に生活や活動が広げられる場所の充実を図った。

— 地域の中でいきいきとした病院へ

患者を支える側であるスタッフの働く環境整備も重視すべき点であり、スタッフ専用の食堂やラウンジ等を設置し、休憩時にリフレッシュできる空間も充実させている。

これまでに病院が地域に開くために企画されていたイベント等がコロナ禍を超えて少しずつ再開されてきている。まちとシームレスにつながり、より地域に開かれていきいきとした病院となることを期待してやまない。

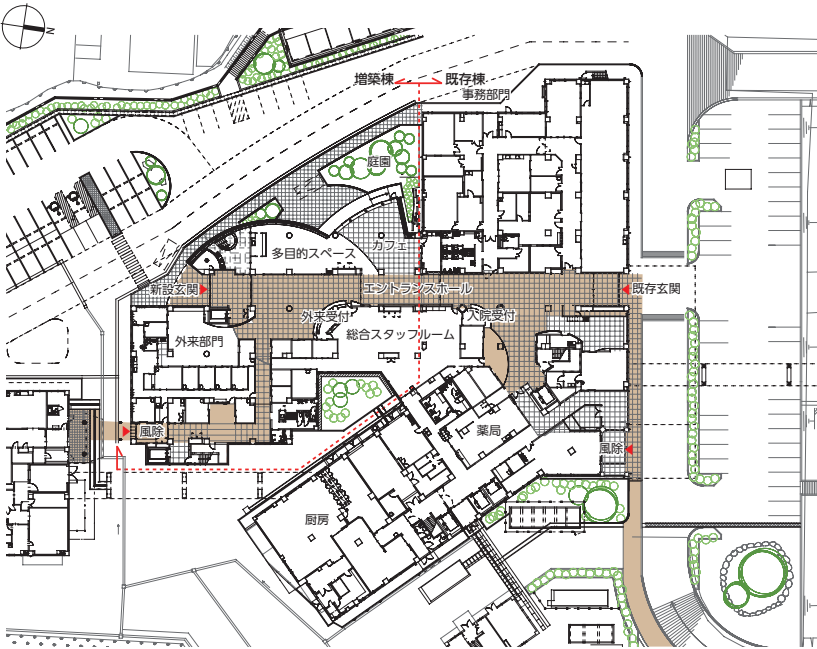
(鈴木慶治、小島千知、中 達夫/共同建築設計事務所)



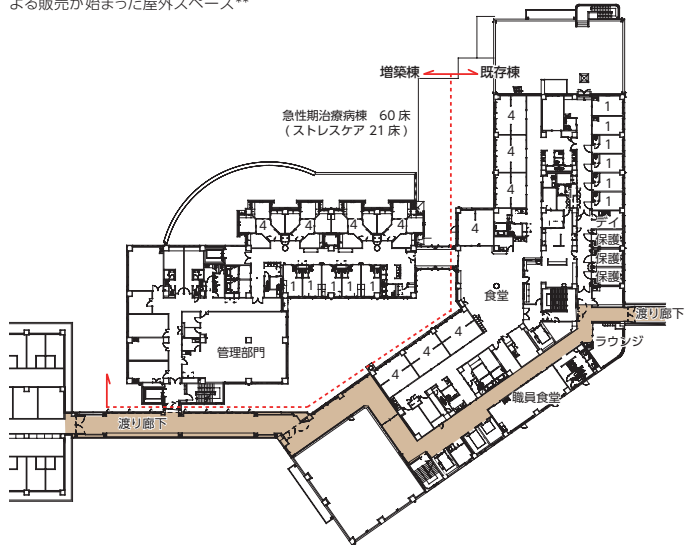
改修棟スタッフステーション
左：オープン（昼間）時
右：クローズ（夜間）時*



リニューアルオープンしたカフェスペースと、設計当初から想定していたキッチンカーによる販売が始まった屋外スペース**



配置・1階平面図 縮尺1/1,200



3階平面図

医療福祉センター 倉吉病院 データ

所在地 鳥取県倉吉市山根43
主要用途 精神科病院
建築主 社会医療法人 仁厚会
設計・監理 共同建築設計事務所
 担当/総括：鈴木慶治 建築：小島千知、中 達夫
監理（建築） 匠セイク合同設計 担当/村中耕作
構造 織本構造設計 担当/中村幸悦、石塚 駿
設備 アイ設計 担当/高橋 武、西原功大
施工 熊谷組・馬野建設特定建設工事共同企業体
 担当/田中正雄、清水清之、塩谷信賢、佐伯総一郎、石井大河、折尾泰宏

設計期間 2018年10月～2019年12月
工事期間 2020年1月～2022年3月
【建築概要】
敷地面積 40,558.41㎡
建築面積 4,306.78㎡(うち増築1,453.61㎡)
 ※今回関連棟のみ
延床面積 15,935.24㎡(うち増築4,464.84㎡)
 ※今回関連棟のみ
建べい率 22.77%(既存別棟含む)(許容67.74%)
容積率 75.92%(既存別棟含む)(許容354.93%)
構造規模 RC造一部S造 地上7階、塔屋2階
 (増築部分地上4階)
最高高さ 27.4m
軒高 26.8m
駐車台数 約80台 ※今回関連棟のみ
地域地区 一種住居地域・無指定地域
【病棟概要】
診療科目 全2科(精神科、皮膚科)
病床数 全240床(1床64室、2床2室、4床43室)
1床当延床面積 66.39㎡
病棟基準階面積 1,412.77～2,042.44㎡
1床当病棟基準階面積 23.54㎡～34.04㎡

防災設備 消火/スプリンクラー設備、連結送水管、消火器
 排煙/排煙窓による自然排煙 その他/自動火災報知器設備、非常警報設備(放送設備)、誘導灯設備、非常照明設備、避雷設備
昇降機 寝台用×5基、乗用×1基
特殊設備 ナースコール設備、監視カメラ設備、医療ガス設備、消雪設備

撮影/SATOH PHOTO/佐藤和成
 *撮影/共同建築設計事務所 **撮影/社会医療法人仁厚会



鈴木 慶治……すすぎ けいじ
 1981年明治大学工学部建築学科卒業、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社代表取締役



小島 千知……こじま ちはる
 1999年東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻修了、2004年共同建築設計事務所入社。現在、同社第2設計部 部長



中 達夫……なか たつお
 2002年横浜国立大学大学院工学研究科計画建設学専攻修了、2005年共同建築設計事務所入社。現在、同社企画設計部 室長

【設備概要】
電気設備 受電方式/3φ3W6.6kVA 屋外型キュービクル変電設備 変圧器容量/1,200kVA 予備電源/ディーゼル式非常用発電機300kVA
空調設備 空調方式/外調機+電気式ビル用マルチ方式(EHP)空調機
衛生設備 給水/上水方式 受水槽+高置水槽方式 給湯/灯油炊き連結湯沸し器+真空式温水器・貯湯槽中央給湯方式 排水/汚水・雑排水建物内合流式・下水道本管へ放流

協力会社

電気設備工事	中 電 工
地盤改良工事(テノコラム工法)	テ ノ ッ ク ス
鷹・土工工事	因 幡 組
鉄骨工事	スペースワーク
型枠工事	渡 辺 組
生コンクリート納入	中部地区生コンクリート協同組合
屋根・板金工事	山本板金工作所
金属・サイン工事	中西 一郎 商店
アルミ製建具工事	Y K K A P
アルミ製建具	不二サッシ
金属製建具工事	影 山 商 事
鋼製建具工事	文化シャッター
軽量鋼製建具工事	山 金 工 業
鋼製建具・ガラス工事	鴨 川
押出成形セメント板	ノ ザ ワ
塗装工事	オ オ ツ キ 化 研
木 工 事	謙 岐 木 材
ナースコール	ア イ ホ ン
美 装 工 事	ア ペ ッ ク ス